題　　言

工事視察の最好機會

大河戸博士は平凡なる工事の中に常に新しき研究的價値を見出す人である、氏の考案になる井筒沈下の新工法は從來の施工法を改むべき一大發見として先に工事畫報が報道した處であるが、今回同一ヶ所の工事に於て施工せられつゝあるガーダーの連續架設法は又最も注意すべき最近の新考案である。之は殆んど厄介とか危險とか云ふ程の設備なくして十連以上のガーダーを連續的に架設するものである。

斯の如き現場工法の妙案は必ずしも博士一人の思ひ付にはあらざるべく、現場關係者多數の協力一致の研究的態度より出でたるものならんも、此等の考案を續々採用して一日も進歩なかる可らざるの刺戟を與へらるゝ大河戸博士の態度に對しては、我國の工事界の爲めに一大敬意を拂ふものである。

時は恰も陽春の候、處は赤羽驛に近く、櫻の名に因みある荒川の鐵道橋である。

自然に親しむの工事

奥丹後の大震災は悲痛な經驗ではあるが、我々日本人としては餘りに地震に馴れすぎてをる、遠き我等の祖先から幾度か此の慘害を經驗した結果、最も恐るべきものゝ第一として地震を擧げられたのである。

人生は總て之れ自然を相手とする工事である、一日も寸刻も我等は我等の工事を忘るべきではない、適材適所、工事の秘訣は其丈である、獨創的技術も唯其丈である、一木一石の微と雖も其本來の使命を果さしめよ、自然は恐るべからず親しむべし、恐るべきは我等の工事技術が依然として舊態の儘なる事である。

新　博　士　二　人

内務省の工事關係から近頃二人の工學博士を出された事は慶賀に耐へない、學位を尊重するわけではないが、日本の樣に工事關係者が世間から持てぬ樣では、技術の力を認めさす手段としても、學位を得る人の一人も多きが良い。

技術と勞働とに理解のない國家は必ず衰亡すべきである。

鈴木雅次博士も、金森盛之博士も何れも趣味に富んだ新進の篤學者で、且つ實地の工事に最も理解ある人達である。

新興の日本のために、斯る新人輩出のために、常に多大の注意を拂はれつゝある斯界の先輩に對し我等は爰に其健康を祝福するものである。

最　初　の　美　術　館

東洋の美術國と自稱してゐる我國に一の公設美術館のなかつた事は專門外の人でも物足らぬ思ひであつた、福岡縣若松市の佐藤慶太郎氏が百萬圓を寄附して我國最初の美術館が上野に竣工したのは昨年の春であつた。

近來種々な名目で公園地をツブされる事は遺憾な事であるが、此の上野の美術館ばかりは其環境と相俟つて一段の美を加ふるものである、陽春の候に際し今改めて此の内容外觀の一部を傳ふる所以である。